

バドミントン女子シングルスにおける新スコアリングシステム導入による試合展開の変化

Change caused by new scoring system in women singles badminton game

1K05A123

関谷 真由

指導教員

主査 関一誠先生

副査 矢島忠明先生

1. 目的

2006年5月6日I.B.F(国際バドミントン連盟)は、第26回年次総会において従来までのサービス権制15点3ゲームマッチ(女子シングルスのみ11点3ゲームマッチ)からラリーポイント制21点3ゲームマッチの導入を決定した。この新スコアリングシステム導入により、バドミントンの試合展開はよりスピーディーになり、試合時間が短くなるといわれている。しかし女子シングルスにおいては、試合時間が長く感じる、体力的にきつくなるという意見も挙がっている。実際、他の3種目(混合ダブルスを除く)では試合時間が短縮されたように感じるが、女子シングルスについてはあまり変化のない印象がある。そこで、アテネ・北京オリンピックにおいて2大会連続で金メダルを獲得したツァン・ニン選手の試合展開から、新スコアリングシステム導入により、実際には、女子シングルスがどのように変化したのかについて検討した。

2. 方法

?2005年全英オープン女子シングルス決勝、ツァン・ニン選手(中国)VSシェー・シンファン選手(中国)、?2006年全英オープン女子シングルス決勝、ツァン・ニン選手(中国)VSシェー・シンファン選手(中国)、?2006年ユーバー杯女子決勝、中国対オランダ戦の第一シングルス、ツァン・ニン選手(中国)VSミア・アウディナ選手(オランダ)、?2007年シンガポールオープン女子シングルス決勝、ツァン・ニン選手(中国)VSシェー・シンファン選手(中国)の4つの試合のDVD映像を使用し、各試合の試合展開と試合時間、1ゲーム平均

時間、総ヒット数、ラリー数、ラリー時間、テンポなどを比較した。さらにコートを9分割し、ツァン・ニン選手がシャトルを打ち込んだエリアを統計処理し、ラリー展開を考察した。この分析結果を元に旧スコアリングシステムと新スコアリングシステムを比較しどのような変化があったのか調べた。

3. 結果と考察

新スコアリングシステムが導入後の、女子シングルスで、ほとんどの項目において大きな差は見られなかった。唯一変化がみられたのは、ラリーの回数やラリー時間だった。これらは導入前に比べ減少したが、試合時間に変化は見られなかった。これは、スコアが11点から、21点に変更になった為、ラリー数が短くなっても、1ゲームの点数が増加したことが関わっていると考えられる。また、ツァン選手がシャトルを配球したエリアは、旧スコアリングシステムではコートの後方が多かった。しかし、新スコアリングシステムでは、後方が減少し、前方にシャトルを打ち込むことが多くなっていたのに対し、コートの中央部に打つ球は差異がなかった。女子シングルスにおいてエースを取れるショットはカットもしくはスマッシュがほとんどである。前方に打ち込むショットが増加したことで、より攻撃的な試合展開になったといえる。

4. 結論

女子シングルスにおいて新スコアリングシステム導入後、いくつかの変化がみられた。

試合時間が短くならない原因として、旧スコアリングシステムよりも、攻撃に重点をおいた先行逃

げ切りスタイルとなったが、攻撃がそのままエースショットとならず、得点につながらないことが多いからであると考えられる。その為、今までと同様に長いラリーが続く傾向があった。また、体力的にきつく感じるというのは、攻撃重視のスタイルになった為、常に100パーセントに近いパワーを発揮し、ゲ

ームを展開しなければならなくなったこと、さらに、自分自身のミスが即失点につながる為、簡単にはミスできないという緊張感があり、今まで以上に1ラリーに集中しなければならなくなったからであると考えられる。